

独立行政法人 経済産業研究所 (RIETI)



BBLセミナー プレゼンテーション資料

2019年11月8日

「令和元年版防衛白書の概要について」

<https://www.rieti.go.jp/jp/index.html>

令和元年版防衛白書の概要について

令和元年11月
防衛省

令和元年版防衛白書の特徴

① 新防衛大綱及び新中期防策定後、初の刊行

- 新防衛大綱の概要を巻頭特集として掲載
- 本文においては、新防衛大綱及び新中期防の内容について、コラムも交えながら詳しく説明



安全保障と防衛力に関する懇談会（昨年12月）

② 新元号下、初の防衛白書

- 新たな時代を迎え、平成の防衛省・自衛隊を振り返る巻頭特集を掲載
A R※動画を活用し、当時の映像とともに振り返ることが可能
※ Augmented Reality（拡張現実）



令和元年版防衛白書の構成 ⇒ 新防衛大綱の構成も踏まえ作成

巻頭

- ・巻頭特集：①「新たな防衛計画の大綱」、②「防衛この1年」、③平成の防衛省・自衛隊
- ・ダイジェスト

第Ⅰ部 わが国を取り巻く安全保障環境

- 第1章 概観
- 第2章 諸外国の軍事動向など
- 第3章 宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域をめぐる動向・国際社会の課題

▶ 各国の記載順を変更

元年版白書：米国、中国、北朝鮮、ロシア
(30年版白書：米国、北朝鮮、中国、ロシア)

第Ⅱ部 わが国の安全保障・防衛政策

- 第1章 わが国の安全保障と防衛の基本的考え方
- 第2章 防衛省・自衛隊の組織
- 第3章 新たな防衛計画の大綱
- 第4章 新たな中期防衛力整備計画など
- 第5章 平和安全法制などの整備と施行後の自衛隊の活動状況など

第Ⅲ部 わが国防衛の三つの柱

- 第1章 わが国自身の防衛体制
- 第2章 日米同盟
- 第3章 安全保障協力

▶ 各国の記載順を変更

元年版：「豪、印、ASEAN、韓、欧州諸国等、中、露（以下略）」
(30年版：「豪、韓、印、中、露、ASEAN（以下略）」)

第Ⅳ部 防衛力を構成する中心的な要素など

- 第1章 防衛力を支える人的基盤及び衛生機能
- 第2章 防衛装備・技術に関する諸施策
- 第3章 情報機能の強化
- 第4章 地域社会・国民とのかかわり

巻末

資料編・索引・巻末資料「平和を仕事にする」

現在の安全保障環境の特徴

- 既存の秩序をめぐる不確実性が増大し、政治・経済・軍事にわたる**国家間の競争が顕在化**
 - ・ **グレーゾーンの事態**が長期化、軍事と非軍事の境界を意図的に曖昧にする「**ハイブリッド戦**」の手法も
- テクノロジーの進化が安全保障の在り方を根本的に変えようとしている
 - ・ **宇宙・サイバー・電磁波領域**の重要性、戦闘様相を一変させる**ゲーム・チェンジャー技術**
- **一国のみでの対応が困難な安全保障上の課題**が顕在化
 - ・ 海上交通の安全確保、宇宙・サイバー空間の安定的利用の確保、大量破壊兵器の拡散への対応、地域紛争・国際テロへの対応

わが国周辺国などの軍事動向

- **米国**は世界最大の総合的な国力を保有。軍事力の再建、同盟とパートナーシップの強化、インド太平洋地域を優先地域と位置づけ
- **中国**は核・ミサイル戦力、海上・航空戦力に加え、宇宙・サイバー・電磁波領域の能力を強化。既存の国際秩序とは相容れない独自の主張に基づき、力を背景とした一方的な現状変更を試みるとともに、東シナ海を始めとする海空域において、軍事活動を拡大・活発化。**その軍事動向は、安全保障上の強い懸念**
- **北朝鮮**は全ての大量破壊兵器及びあらゆる弾道ミサイルの完全な、検証可能な、かつ、不可逆的な方法での廃棄は行っておらず、その**核・ミサイル能力に本質的な変化はなく、その軍事動向はわが国の安全に対する重大かつ差し迫った脅威**
- **ロシア**は極東においても**軍事活動を活発化させる傾向にあり、その動向を注視していく必要**

全般

- **安全保障上の最優先課題**は、修正主義勢力である**中国・ロシアとの戦略的競争**であると認識。特に、中国に対する抑止を強化
- **北朝鮮の核能力は、米国にとって脅威であるとの認識**の下、制裁を維持するとともに、在韓米軍などによる確固たる軍事的即応性を維持しつつ、北朝鮮の非核化を追求

安全保障・国防政策をめぐる動向

- **インド太平洋地域を優先地域と位置づけ**、19（令和元）年6月に「**インド太平洋戦略報告**」（**I P S R**）を発表。
- 大国の侵略を抑止し、勝利するための軍事的優位性を維持するための取組を継続（過去70年で最大の研究開発予算、前年比15%増となる宇宙関連予算、前年比10%増となるサイバー関連予算などを要求）
- 核戦力については、18（平成30）年2月に「**核態勢の見直し**」（**NPR**※）を発表。核の3本柱（SLBM※・ICBM※・戦略爆撃機）を維持・換装するほか、潜水艦発射型弾道ミサイル（SLBM）の一部の弾頭の低出力化などを実施する方針
※ Nuclear Posture Review ※ Submarine-Launched Ballistic Missile ※ Inter-Continental Ballistic Missile

また、**ロシアのINF（中距離核戦力）全廃条約違反を理由に、同条約から脱退**するとともに、同条約の枠外で中距離ミサイル戦力を強化してきた中国を含めた軍備管理の必要性に言及

- ミサイル防衛については、19（平成31）年1月に「**ミサイル防衛見直し**」（**MDR**）を発表。既存のシステムの拡充・近代化及び宇宙空間を活用した新技術の開発を推進する方針

米国が発表した
「ミサイル防衛見直し」（MDR）

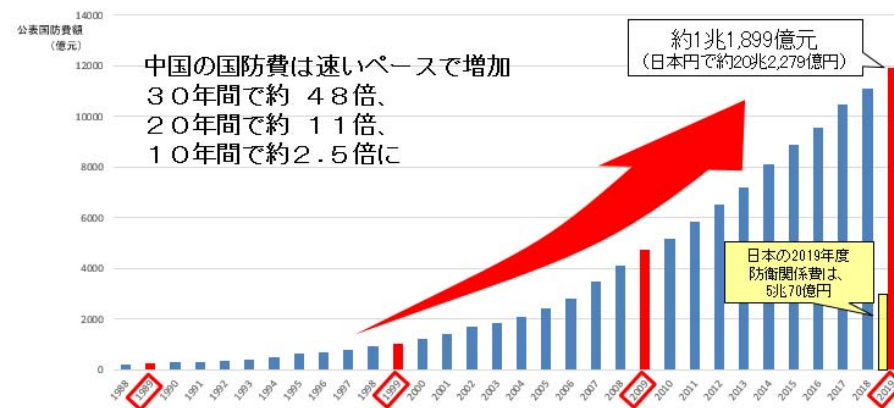


中国の全般的評価 ⇒ 新防衛大綱における評価を維持

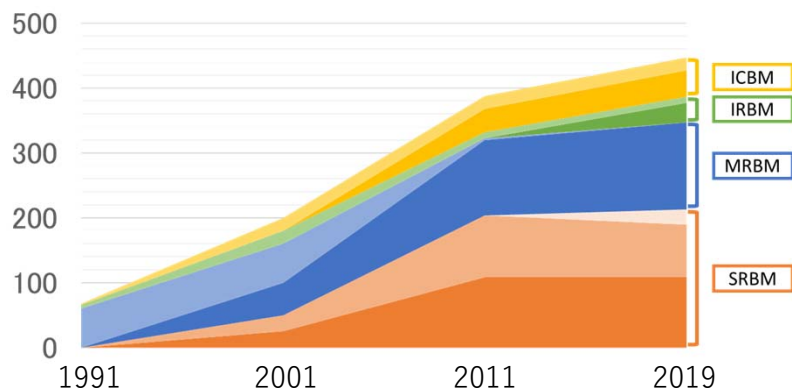
- 急速な作戦遂行能力の強化やわが国周辺での活動を拡大・活発化させてきていることなどは、国防政策や軍事力の不透明性とあいまって、**わが国を含む地域と国際社会の安全保障上の強い懸念**
- 地域やグローバルな課題に対して、**より協調的な形で積極的な役割を果たすことが強く期待**される。

最近の動向①～作戦遂行能力の向上～

- 透明性を欠いたまま、継続的に高い水準で国防費を増加。核・ミサイル戦力や海上・航空戦力を中心に軍事力の質・量を広範かつ急速に強化
- その際、サイバー領域や電磁波領域における能力を急速に発展させるとともに、宇宙領域における能力強化も継続するなど、新たな領域における優勢の確保を重視
- 軍民融合政策を全面的に推進しつつ、軍事利用が可能な先端技術の開発・獲得にも積極的に取り組んでいる。



中国の公表国防費の推移



中国の弾道ミサイル発射機数の推移



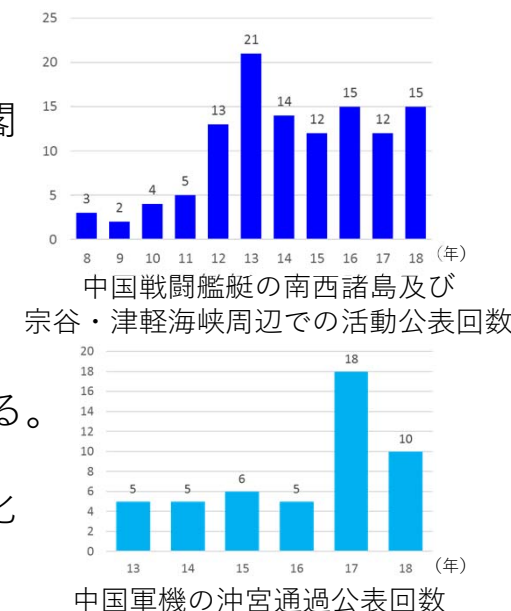
中国の宇宙作戦コントロールステーション



中国の「スウォーム(群れ)」技術を利用した小型無人機

最近の動向② ～海空域などにおける活動～

- 尖閣諸島に関する独自の主張に基づくとみられる活動をはじめ、海上・航空戦力は、尖閣諸島周辺を含むわが国周辺海空域における活動を拡大・活発化
- 海軍による太平洋への進出は、高い頻度で継続
空軍の沖縄本島・宮古島間の通過を伴う太平洋進出は、平成29年以降一層活発化
太平洋における海上・航空戦力による活動は、今後一層の拡大・活発化が見込まれる。
18（平成30）年の**日本海での活動は大幅に増加**。今後とも拡大・活発化すると考えられる。
- 南シナ海においては、軍事拠点化を進めるとともに、海空域における活動も拡大・活発化
また、東シナ海や南シナ海で石油や天然ガスの採掘や探査などを継続



最近の動向③ ～米中関係～

- 米中間には、種々の懸案が存在
(貿易、中国の通信機器メーカーをめぐるサプライチェーンリスク、南シナ海の大規模かつ急速な軍事拠点化や米国による航行の自由作戦、台湾、中国の人権問題など)
- **中国**は、安定的な米中関係が経済建設など自国の発展を図る上で必須と認識しつつも、自国の「**核心的利益と重大な関心事**」については**妥協しない姿勢**
- **米国**は、**対中抑止の姿勢**を強めており、議会も超党派で支持。**インド太平洋地域を優先地域**と位置づけ、同盟とパートナーシップを強化していく方針
- **中台の軍事バランス**は全体として**中国側に有利**な方向に変化し、その差は年々拡大する傾向。米国は台湾関係法に基づき台湾へ**武器売却を継続**（**F-16戦闘機**など）

対馬海峡通過公表回数（平成30年）
海上戦力：17回（前年4回）
航空戦力：8回（前年2回）



中国に関する演説を行う
ペンス米副大統領
(18（平成30）年10月)

北朝鮮に対する全般的評価 ⇒ 新防衛大綱における評価を維持

- 北朝鮮の軍事動向は、わが国の安全に対する**重大かつ差し迫った脅威**
- 全ての大量破壊兵器及びあらゆる弾道ミサイルの完全な、検証可能な、かつ、不可逆的な方法での廃棄は行っておらず、北朝鮮の**核・ミサイル能力に本質的な変化は生じていない**。
- 核実験を通じた技術的成熟等を踏まえれば、弾道ミサイルに搭載するための**核兵器の小型化・弾頭化を既に実現している**とみられる※。(※ 昨年の白書では「実現している可能性」と評価)



ノドン・ミサイル

最近の動向① ～5月、7月及び8月の短距離弾道ミサイル発射事案など～

- 19（令和元）年5月4日、9日、7月25日、8月6日及び24日に**短距離弾道ミサイルを発射**（7月31日、8月2日、8月10日及び8月16日にも何らかの飛翔体を発射）

第2回米朝首脳会談
（19（平成31）年2月）

最近の動向② ～米朝関係など～

- 北朝鮮は一方的な非核化には応じない旨繰り返し主張。北朝鮮は朝鮮半島の完全な非核化を表明した後においても**核開発を継続しているとの指摘**や、北朝鮮が**公表していないウラン濃縮施設が存在するとの指摘**も
- 19（平成31）年2月の**第2回米朝首脳会談**において、米朝双方は**いかなる合意にも達することなく終了**。金正恩委員長は、当面は米国との対話を継続する姿勢

「瀬取り」を実施していたことが強く疑われる北朝鮮籍タンカー
（19（平成31）年3月）

最近の動向③ ～「瀬取り」～

- 「瀬取り」による国連安保理の制裁逃れを図っているとみられ、**急増しているとの指摘**

ロシアの全般的評価

⇒ 新防衛大綱における評価を維持

- ロシアは北極圏、欧州、米国周辺、中東に加え、極東においても軍事活動を活発化させる傾向にあり、その動向を注視していく必要

最近の動向① ～ I N F 全廃条約をめぐる動向～

- 米国は、13（平成25）年5月以降、ロシアの I N F 全廃条約違反を指摘するも、米口の主張は平行線。19（平成31）年2月、**米国**が6ヶ月以内に **I N F 全廃条約から脱退することを通告**。19（令和元）年8月2日、米国は同条約からの脱退及び通常弾頭搭載の地上発射型中距離ミサイルの開発追求を表明
- **ロシア**は、地上発射型の極超音速巡航ミサイルなどを開発することを表明し、同年3月には、**同条約の履行を停止する旨米側に通知**。同年8月、同条約の失効を非難。

最近の動向② ～北方領土及びわが国周辺の活動～

- **わが国固有の領土である北方領土**においてロシア軍の駐留を継続させ、昨今、その活動をより活発化（軍事施設の整備、Su-35の択捉島への配備、軍事演習の継続など）
- 18（平成30）年9月には東部軍管区において、1981（昭和56）年以来最大とされる大規模演習「ヴォストーク2018」（約30万人（露国防省発表））が行われ、中国やモンゴルも参加
- 19（令和元）年7月には、ロシアの長距離爆撃機と中国の爆撃機が日本海から東シナ海にかけて共同で飛行するなどロシアと中国との軍事協力の進展が窺われる。



海上自衛隊として初確認した「アドミラル・ゴルシコフ」級フリゲート（19（平成31）年4月）



ロシアが初公開した地上発射型巡航ミサイル「9M729」



「ヴォストーク2018」で露中蒙により行われた軍事パレード（18（平成30）年9月）

軍事科学技術

⇒ 新防衛大綱において重視。具体的事例を紹介しつつ記述

- 主要国は、最先端技術を活用した兵器（ゲーム・チェンジャー）の開発に注力（AIを搭載した自律型無人機、極超音速兵器、電磁ルールガン、高出力レーザー兵器、量子科学技術）



中国による衛星「北斗」の打ち上げ

宇宙領域

- 各国は宇宙空間において、偵察・通信・測位衛星など、自国の軍事的優位性を確保するための能力を急速に開発（18（平成30）年の軍事衛星打ち上げ機数：米国6機、中国29機、ロシア8機（同年11月時点））
- また、中国及びロシアは、対衛星兵器など、宇宙利用を妨害する能力を強化との指摘。**米国**は、陸海空軍などと同格の「**宇宙軍**」を創設するための法案を議会に提出



マルウェア「ワナクライ」の脅迫文画面

サイバー領域

- 米英両政府は、化学兵器禁止機関、米国民党全国大会などに対する一連のサイバー攻撃事案について**ロシア軍**参謀本部情報当局によるものと発表（19（平成30）年10月）
- 米国などは、**中国**国家安全部と関連するサイバーグループ「**APT10**」が少なくとも12か国に対して知的財産などを標的とするサイバー攻撃を実施したと発表（同年12月）



ロシアがシリアにおいて使用したとされる電子戦装備品「クラスハ-4」

電磁波領域

- 主要国は、電磁波利用の妨害（電子攻撃）を、敵の戦力発揮を効果的に阻止する手段と認識し、その能力を向上

新防衛大綱及び新中期防

- 新防衛大綱及び新中期防の概要の説明に加え、ポイントとなる事項については、コラム※を設けて一般読者にも分かりやすく説明

※「グレーゾーンの事態とハイブリッド戦」、「領域横断作戦」、
「宇宙領域専門部隊の新編」、「サイバー防衛隊の新編」、「電磁波領域における能力強化」、
「いずも型護衛艦の改修」、「戦闘機体系の構築」 など



観閲式で巡閲する安倍内閣総理大臣
(18(平成30)年10月)

令和元年度の防衛力整備

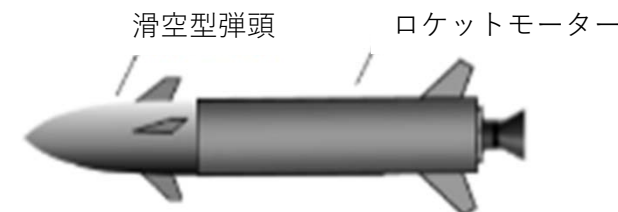
- 令和元(2019)年度は、新防衛大綱及び新中期防の初年度であり、真に実効的な防衛力として、多次元統合防衛力の構築に向け、防衛力整備を着実に実施
- 令和元(2019)年度の防衛関係費は、前年度と比べて682億円増額の5兆70億円であり、**7年連続で増加**



護衛艦「いずも」の改修に向けた調査研究



戦闘機(F-35A)の取得



島嶼防衛用高速滑空弾の研究

平和安全法制施行後の自衛隊の活動状況など

- 平和安全法制に基づく新たな任務・訓練の実施状況として、**多国籍部隊・監視団（MFO※）への要員派遣**などについて紹介

※ Multinational Force and Observers

- （例）
- ・シナイ半島におけるエジプト・イスラエル間の停戦監視活動などを行うMFOの司令部に要員を派遣
 - ・多国間共同訓練「カーン・クエスト」における国連平和維持活動に関する訓練（18（平成30）年6月、19（令和元）年6月）
 - ・ジブチ及び国内における在外邦人等の保護措置に関する訓練（18（平成30）年9月及び12月）
 - ・多国間共同訓練「コブラ・ゴールド19」における在外邦人等の保護措置に関する訓練（19（平成31）年1月～2月）
 - ・米艦艇・航空機の警護任務の実施（18（平成30）年において計16回）



MFO司令部において勤務中のわが国要員
（19（令和元）年5月）



多国間共同訓練「コブラ・ゴールド19」における在外邦人等の保護措置訓練（19（平成31）年2月）

平素からグレーゾーンの事態への対応

- 平素から領海・領空とその周辺海空域において、情報収集及び警戒監視を実施
 - ・ 北朝鮮関連船舶による違法な船舶間の物資の積替え(「瀬取り」)を、計20回 確認(18(平成30)年1月~19(令和元)年6月)
 - ・ 「瀬取り」の監視活動には、豪、加、英、NZ、仏も参加
 - ・ 18(平成30)年12月、警戒監視中の海自P-1哨戒機が、韓国海軍艦艇から**火器管制レーダーを照射される事案**が発生。防衛省は、客観的事実をとりまとめた最終見解を公表。韓国側に再発防止を強く求めている。

- 領空侵犯に備えた警戒と緊急発進(スクランブル)
 - ・ 中国・ロシア軍機などによるわが国周辺での活動の活発化
 - ・ 平成30(2018)年度、空自は999回のスクランブルを実施(過去2番目の多さ)
 - ・ 19(令和元)年6月、7月にはロシア機による**領空侵犯事案**が生起



「瀬取り」を実施していたことが強く疑われる北朝鮮籍タンカー(19(平成31)年1月)



「瀬取り」の警戒監視活動を実施したフランスFalcon200



わが国の領空を侵犯したロシアTu-95長距離爆撃機(19(令和元)年6月)

島嶼部を含むわが国への攻撃への対応

- 島嶼部に対する攻撃への対応
 - ・ 南西地域の防衛態勢強化のため、与那国沿岸監視隊の新編に加え、新たに奄美大島に警備部隊などを、宮古島に警備部隊を配置。今後は、石垣島に警備部隊などを配置
 - ・ 平成30（2018）年度から島嶼防衛用新対艦誘導弾及び島嶼防衛用高速滑空弾の要素技術の研究に着手
 - ・ 輸送艦の改修、V-22オスプレイ及びC-2輸送機などの導入による機動・展開能力の向上を推進
 - ・ 陸自オスプレイについて、米国における訓練の状況をコラムで説明。また、木更津駐屯地への暫定配備について地元説明を行った旨を説明
- イージス・アショアの導入
 - ・ わが国全域を長期にわたり切れ目なく防護するとともに、イージス艦を海洋の安全確保任務に充てることが可能
 - ・ イージス・アショアの配備について、地元説明資料の誤り等、極めて不適切な対応があったことを真摯に反省。19（令和元）年6月に防衛副大臣を本部長とする「イージス・アショア整備推進本部」を設置。地元の住民の様々な疑問や不安を解消すべく努力



宮古警備隊編成完結行事
(19（平成31）年4月)



米国において訓練中の陸自隊員とオスプレイ

宇宙・サイバー・電磁波の領域での対応

- 宇宙領域での対応
 - ・ 令和4（2022）年度までに**宇宙状況監視（SSA※）体制**を構築
 - ・ 今後、相手方の指揮統制・情報通信を妨げる能力を含め、宇宙利用の優位を確保するための能力などを強化
※ SSA：Space Situational Awareness
- サイバー領域での対応
 - ・ 令和元（2019）年度は、**サイバー防衛隊**を約70名増員し、約220名へと拡充
 - ・ 今後、有事において、わが国への攻撃に際して、当該攻撃に用いられる相手方によるサイバー空間の利用を妨げる能力を含め、サイバー防衛能力を抜本的に強化
- 電磁波領域での対応
 - ・ 令和元（2019）年度は、**電磁波領域の専門部署**を新設
 - ・ 今後、電磁波の利用を適切に管理・調整する機能、電磁波に関する情報収集・分析能力及びわが国への侵攻を企図する相手方のレーダーや通信などを無力化するための能力を強化

大規模災害などへの対応

- 自然災害などへの対応
 - ・ 平成30年7月豪雨、平成30年北海道胆振東部地震における人命救助など
 - ・ 豚コレラの発生に伴う防疫措置
- 離島などの救急患者を航空機で緊急搬送（急患輸送）
 - ・ 平成30（2018）年度の災害派遣の約75%が急患輸送



平成30年北海道胆振東部地震において
捜索活動にあたる空自隊員と警備犬



急患の発生した船舶の近傍に着水し
急患輸送を行う海自US-2
(18(平成30)年10月)

日米間の緊密な連携

- 日米両国は、北朝鮮問題や東シナ海・南シナ海を含む地域情勢等について、日米首脳会談、日米「2+2」、日米防衛相会談等を通じ、緊密に連携



日米首脳による護衛艦「かが」訪問
(19(令和元)年5月)



日米「2+2」(19(平成31)年4月)



岩屋防衛大臣とエスパー米国防長官の会談(19(令和元)年8月)

在日米軍関連

- 沖縄の一層の負担軽減に向けた取組を説明
 - ・ 普天間飛行場代替施設については、キャンプ・シュワブ南側の海域において埋立工事を開始。**サンゴ類の移植**については、環境保護基準を那覇空港第二滑走路の埋立よりも厳しく設定し、同海域で実施。また、一般的で施工実績が豊富な工法による**地盤改良工事**を検討
 - ・ 普天間飛行場の有する機能の分散について、緊急時に航空機を受け入れる機能を**築城基地及び新田原基地に移転するための施設整備**を推進
 - ・ 牧港地区第5ゲート付近の区域返還、米軍オスプレイ等の沖縄県外への訓練移転の実施



饗庭野演習場(滋賀県)に着陸する米海兵隊オスプレイ(19(平成31)年2月)

多角的・多層的な安全保障協力の戦略的な推進

- 「自由で開かれたインド太平洋」というビジョンの下での取組

- 各国との防衛協力・交流の推進

韓国： 自衛艦旗をめぐる韓国側の否定的な対応やレーダー照射事案といった懸案について記述。また、日韓GSOMIAを終了させる決定に対し、防衛大臣より「失望を禁じ得ず、極めて遺憾に思っている」、「日米・日米韓の間で適切な連携が行われるよう、韓国側の賢明な対応を強く求める」旨のコメントを発表したことを記述

中国： 多層的な対話や交流の推進、18（平成30）年10月（3年ぶり）及び19（令和元）年6月の日中防衛相会談等

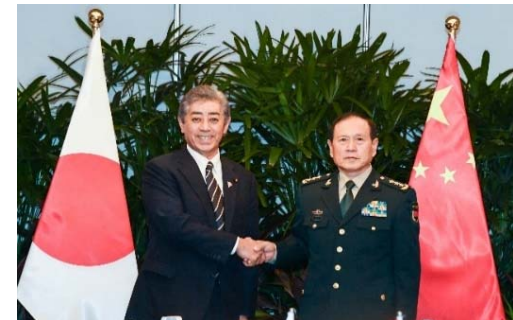
ロシア： 18（平成30）年7月（防衛大臣の初の訪露）及び19（令和元）年5月の日露「2 + 2」及び防衛相会談等について記述

- 多国間における安全保障協力の推進

ビエンチャン・ビジョンに基づき、日ASEAN協力プログラム等を実施し、防衛協力を推進



日印海軍種間の協力深化の取決め
(18（平成30）年10月)



日中防衛相会談（18（平成30）年10月）



パプアニューギニア軍楽隊への能力構築支援（18（平成30）年11月）

海洋安全保障の確保など

- **海賊対処への取組**については、ソマリア沖・アデン湾において、09（平成21）年以来、水上部隊は4,005隻を護衛、航空部隊は2,288回飛行し船舶を海賊行為から防護
- 護衛艦「かが」等、インド太平洋方面派遣訓練部隊による共同訓練や寄港を通じた沿岸国との連携強化について説明



フィリピン海軍C-90と訓練を行うインド太平洋方面派遣訓練部隊（18（平成30）年9月）

宇宙領域及びサイバー領域の利用にかかる協力

- 宇宙：米軍主催のSSA多国間机上演習（グローバル・センチネル）、宇宙安全保障に関する多国間机上演習（シュリーバー演習）に参加。米、豪、仏、EU等と宇宙協議等
- サイバー：豪・英等と防衛当局間サイバー協議。NATO主催のサイバー防衛演習へのオブザーバー参加等。NATOサイバー防衛協力センターに職員を派遣



菅官房長官へ出国挨拶を実施するMFO司令部要員（本年4月）

国際平和協力活動への取組

- **MFOへの司令部要員などの派遣**（要員の現地からの声をコラムとして掲載）
- **UNMISS司令部要員などの派遣継続**
 ※ United Nations Mission in the Republic of South Sudan（国連南スーダン共和国ミッション）
- 国連PKO支援部隊早期展開プロジェクト（昨年、**初めてアジア及び同周辺地域**で実施）
- 国連PKO工兵部隊マニュアルの改訂（前回策定時に引き続き、**議長国**としてマニュアルを改訂）



国連PKO工兵部隊マニュアル改訂のため、東京で実施した専門家会合の様子（18（平成30）年12月）

防衛力を支える人的基盤の強化

● 自衛官の採用年齢の引き上げ

- ・ 一般曹候補生及び自衛官候補生：27歳未満→33歳未満
- ・ 予備自衛官（士長以下）：37歳未満→55歳未満
- ・ 即応予備自衛官（士長以下）：32歳未満→50歳未満

● 生活・勤務環境の改善

老朽化した生活・勤務用備品の確実な更新、日用品などの所要数の確保など



生活用備品の整備

ワークライフバランス・女性の活躍の更なる推進

● 働き方改革

長時間労働の是正や休暇の取得促進など

● 育児・介護などと両立して活躍できるための改革

庁内託児施設を整備。男性職員の家庭生活への参画を推進するため、育児休業などの取得推進（令和2（2020）年度までに取得率13%を目標）



空自初の女性戦闘機操縦者



入間基地の託児施設に子供を預ける隊員

衛生機能の強化

● シームレスな医療・後送態勢の強化

統合運用の観点も含め、第一線から最終後送先までのシームレスな医療・後送態勢の強化（特に南西地域）

● 医官・看護官などの確保、教育・研究の充実・強化

防衛医科大学校の運営改善及び研究機能の強化などにより、優秀な人材を確保するとともに、医官の充足向上

装備体系の見直し

- 合理的な装備体系構築のため、**装備品のファミリー化**などを実施
- 限られた人材を最大限有効に活用するため、**無人化・省人化の取組**を推進

技術基盤の強化

- 戦略的に重要な分野で技術的優越を確保し得るよう「**中長期技術見積り**」※1 を見直し
- 多次元統合防衛力の実現に資するよう、19（令和元）年8月に「**研究開発ビジョン～多次元統合防衛力の実現とその先へ～**」※2 を公表

※1 今後20年の間に確立が期待される技術の見通しと、わが国の技術的優位を確保するために確立しなければならない技術分野を提示するもの

※2 戦略的な視点から、中長期的な研究開発の方向性を明らかにすることを目的として、技術的課題やロードマップを提示するもの

装備調達最適化

- プロジェクト管理を推進するための**取得戦略計画**などの見直し
- **長期契約**を活用した一括調達などによる調達コスト縮減
- **有償援助（FMS※）調達**の合理化を推進 ※ Foreign Military Sales

産業基盤の強靱化

- **企業間の競争環境の創出**に向けた契約制度などの見直し
- 装備品の**サプライチェーンのリスク管理強化**
- 輸入装備品などの維持整備などへのわが国防衛産業のさらなる参画

防衛装備・技術協力

- **陸自UH-1Hの部品などのフィリピンへの無償譲渡**（19（平成31）年3月、引渡し）
- 陸自の退役済み61式戦車をヨルダンに引き渡し（19（令和元）年8月）
- 「国際防衛装備品展示会」や「官民防衛産業フォーラム」を通じた、防衛装備・技術協力の推進



インドネシアで開催された国際防衛装備品展示会（18（平成30）年11月）

公文書の適切な管理

- 健全な民主主義を支える国民共有の知的資源である公文書を適切に管理
- 防衛省における文書管理及び情報公開の実質的責任者となる**公文書監理官の設置**とその取組について、解説
- 南スーダン及びイラク**日報問題に係る再発防止策**を以下のとおり実施

【南スーダン日報問題に係る主な再発防止策】

- ・ 日報の保存期間の見直し（10年保存）
- ・ 統幕による日報の一元的な管理
- ・ 「情報公開査察官」の新設などによるチェック機能の強化

【イラク日報問題に係る主な再発防止策】

- ・ 大臣の指示・命令を履行する体制の強化
- ・ 行政文書の電子ファイル化による的確な行政文書管理・情報公開への対応
- ・ 行政文書管理・情報公開に関するチェック体制の強化
- ・ 行政文書管理・情報公開などに関する個々の隊員の意識改革
- ・ 情報公開などに迅速かつ確実に対応できる組織づくり

昨今の厳しい募集環境を考慮し、入隊後のキャリアやワークライフバランスを実現するための取組、退職に当たって受けられる再就職支援などを説明

【巻末資料のポイント】

- ・ 自衛官の入隊後のキャリアについて説明
- ・ 自衛官採用年齢の引き上げについて周知
- ・ 若年層が自衛官を身近に感じられるよう、入隊2～3年目の隊員の「生の声」を紹介
- ・ ワークライフバランスや女性活躍について隊員の「生の声」を紹介
- ・ 再就職支援の取組を詳しく説明し、民間企業に再就職した元隊員と雇用先の上司の「生の声」を紹介